拾頭部

特別
へ13
3633
61

門へ 13
號 3633
巻 61

船頭深話枝

辰巳船頭

猪牙散人

昭和三十二年六月八日
宮川曼魚氏寄贈

前編ノ二書盛ニ行ル千世ニ
其蕭洒亦殆ント盡セリ焉雖ヒ
然覽者尚未タニ以テ爲レ足レリト
故ニ搜ニ索メ其餘零ヲ以テ獻スト
河東遊戲之士ニ云云

宮川曼魚氏寄贈

船頭部屋序

船頭部屋とは何手風に和
面白ふ市場石めたり矢乃
虎よりも念力通す猪牙の
舟乃変ゐ臥猪牙床なまバ仮
小部屋とも呼なるゝ寸法ば

家鴨も枕宮ゝ飛ぐ出柏餅
ゝ船打場をや夢く河岸
番ゝく艪拭あり久ぐと漕事
を知らず起出よく夜明を
寸つぶやくも後朝乃草履拭
遣ぐ客廻の子供送り舟

傘式さく一本綱をまたいで
を遠くぬんなぎし拔迎松い
干潮にたなぎ本瓜よりまを
遲しチヨツト作者乃備舟ハぢ
けるにあゝ拔ども其後編の
おそ那そ屋やくたぎよく

三篇目おぬ拔ぎで紅ぬた
ようとを爾
山下直上ハ於く
醉中臺式採多

猪牙散人述

雪の下鳥井町の
息子穀屋喜之助
滑川酒店の
番頭
藤兵衛

手越の里
古市場の白人
板頭乃於菅
市川組の侠客
長五郎
春龍画

おさらばよ
なごり
あくびが
かけ
春龍画

なが
星

見番凡例

○船頭部屋と号ふは船頭の集る処にして亦子どもの家我送りて出たる後で色よりかたつく抱次第乃生なる呼我とする人船頭渡船のたやすき子ふ後をはけ後篇の南一冊三編とも

○前篇の二書は古市場の穴を穿ち風俗を穿ち社会をあきらかにしたるべかりしを

生の家我主とする聊流行我くるふに

参考しく其花実を知りるべし

○おとなのぶ家奔助長五郎海老蔵三人

社寺引世本よりそのいたさに我らを

く金郎三冊まけめく古まふ花家

のをえやひいめ分船義作者乃

かるまあいるのアヒラやきたい若男性

以上

船頭深話後篇 二篇目

辰巳 船頭部屋 三篇目

鳥居町舟宿の套
七軒堀親里乃套
雀个岡山本ゝ套

船頭部屋

○發端

猪牙散人著

昔鎌倉の傍み紅手越の里とゝゝ花巷あり。憲を賈ふ肆とゝくその名も古き市場の繁昌。今復毫ゝ衰もなきぞ。そも巽の風土ゝゝや。明の珠市ゝ紡紬ゝゝゝゝ市場とゝ称せる歟。とてゝを都の辰巳ととく喜撰ゝ朝茶ゝ梅干ゝ。柴代團子の角

とをく酢を甘もかみこそすれ。彼喜こ助が
息子珠八唐の樊川晋の謝安が風流ハ
傲し男がよくて金ちぐ。呉郡の張翰
頼兼公高雄の茶店ハ憩く比目の眼
を覚さぐ。し店物の藤兵衛ハ頗瓜州ニ
蕭伯梁ハ仙く豪家風見通ハ服ー。長
五郎が強ハ金華ハ往ー比翼ハ延ハ
死をとを厭ど。実くよたるまび婦ハ

深川ハくさかとこ
うをと。白門娘が女侠を学ぶ。拙とうが
能三個の嫖客ハ。まくとこ事。宛行呂
まくこの屁がるハ如く。意と素足ハ
ぢをくさくるど。お川たくん大婦ー隣
お客ハ嫌いっ者なんぞハイ
そぞイリと云く

鳥居町舟宿の套

神や佛がうそ法くなのべかるとて絵様を
ぞふかとうんなそのかはやうさ紀澄とぞ互ま
衣裏へかぶや袋赤〻鰐和とあが赤中かあ
ものい艪杭のようふちの丸ど火縄を仕事て地へ
相とと嬢まるそのの中みあるぞーとみやしいろきやく
赤〻衣い舟以深結のきりみふくさるごく。おとまふつ。ごされ。
ふやあくいそどもむよをさるて軽ざう。る居町舟宿
さんでしよりあぐりかー義のひまあるいるふあーだやみかつとこしき
るりみとるくむぐまとむけ舟宿のみよう不ハ辰巳で張ぶんを

しそらさあげくるるえび。ぎよさんのるいふうぞ〻みく。そうご〻
とのるつはいかるうものの菓ゴ赤ふんちう〻やるうんをどるん
そふよ。ちつぷかつ
ぷとるうもそあぐう

[illegible]

ヲヤ。おかへんなんまー

[illegible]

ぎろふよふどぎんゆーたぎんとゆがるけ
ぎろふと物ものい母〻ぷ。ゆ〻なむゆ〻ゆ〻ゆ〻ハ
げぎゆ〻ぷ。ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻げきゆ〻ト菖蒲芝村ゑ出る
帰新矢の大きゆかけゆのみふむひどるらみえるらかるのるど
きゆ。ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻

ちつと敷へるゝやうがあるてかゝ者てゐるのサ。
ひよろと二階屋の女がこめんゝとこねん。
きたゝら居ねくよふゝくんなト中だまりの意
をゝきてる。あ乃忠八階屋あびたきまゝ
あきめゝとろてる。ちとゝゝ忠こゝ出とま
がそけ軽のあんだんちきんごぶらゝ忠アヤ
たいたんよ長唄かんげんてゝるふ。出とあゝく
らんよろてゝいろさだりでとゑたるふぶん
さとまねゑのゝちあゝちあゝだ忠あでも

ありまゝさのえ長唄イヤいろこゝ出たるゝゝみ
るゝず大阪市ノウ忠とゝ忠アイサ出のひゑ
ふんぞろてやろゝと出のひゑ出さん
ゝあ出きゑ中てぞふーたのぞ忠二義同
が出ねくぞやあゑとゝ祝くまこ花ゝさん長唄
そふよいまゝゝいナヲ忠とゝ忠おぞよ
せいもるくゝておやくさんるふよを腹ア
ねゝちちのさゝ中たアノ子とぞゑ出さのだ

十

ろう 春夏 いけふくしいあぬさ。どんどあろ
のが命がまるぐ。らんろそ二河屋の河岸をえ
よふろノウ出こう トまるぐ。ぐあけるんと長掉一本
バアリ とらよ目ふあろさぐやァ ぬへろ 出アサ
大きふバアリトらくろて仮がのどふたえてらくも出
新ろろよう赤ふ赤ふ赤ふ

長傍さんとらうむ　ぐうゝいおあの　ゝちゃん
で。熱燗とろうて　ゝとあさんを　碎　きろて
なるゝんまゝたゝ。チット　まちぐんもごさい
まゝさのサ。ごゝぞお出るよゝふゝゝさのん
ゝまゝと　ウハイゝ　ゝゝさんのごゝつこ久
ゝんのごよ。お出るゝろさゝそゝめゝそゝ
ゝる　ごゝぞゝさのんゝまゝとコレ　どん
ゝてきゝんるよ　おかをゝ

ヨヤ　どん　鼻の下ふゝまんまゝぶがゝろけいゝる
よゝ　かゝしんよゝ　ゝゝゝ　ハイさゝふゝるゝ　おかみさん
トいゝさゝて出げゝるあと　ふゝゝ　ゝゝふゝゝじゝ　あけ
まゝたゝ久　ゲップ　アッて引　吸てんゝく　茶ゝく
さゝたいゝそのゝゝ　酒でものゝふゝ　ゝゝ
臭ゝへいゝてゝんぞのゝるものをゝゝてき
さゝゝ。いゝんまゝい　れ　酒でもあゝゝずば
とゝふゝ　ゝゝふゝ　ゝゝゝ　ゝゝ

ゑとよのうト投紙丁の多くゆく

ごふかしてお出るそるよふざよ

うさ お部つきがいろめのよふでございきのせん

かゝサ 春之丞 そのこりけとふハタヲ新川の茂兵

と扨ちかてぴきそをぢくの紀亜ごゝゝ。ワレ

むづかしくふとさ。ぴ前茂兵も店をか

ぶりてるむがみゝ。菱垣のてんま紙ふるふふ

ふ。どかくぶりたうたぐる。おとまハせるふるゝさ

おのゆなり。蘇来ゆるゝど。扨ぢ栄代を

ゝるよふふ。ふ紙なぐく遊せをとるど。おを

をべちゆうくおき。ゝんてかゝろたあんそ

ぢゝサ。充満坪の煙そきをとふふ。あくた

めゝゑをまのけ出して。紀徳ふそゝさ髪の毛

をもけんせといふゝう。とろ茂兵がせくな

ともこんゝさ。イヤ〳〵おきぢうぬぢ きこてだ。

を横ゝ紀徳を反古一枚髪の毛そゝく紙

屑籠へうつちやるよりハとあつてちやうひろ家
をさつくるべ 誂のおあだ。耶摩口稲荷を
ちよつらんあ。ぴ初午の仕舞ゐを見通を
ひろくるけん〜。ゐぎやうゐあそぶうすきぐつくん
ゐと千両一分郡米。三分五厘ゐ者ゐそゐねと。
一蓋盛田屋をいふ家よなつさがイヤ〜ぴ
前不市の外でうやちんぐうと物のそれてゐ
とうんゐるいつぐ人でゐるいつぐんと。五大力の

源五兵衛きどりて。平家でかるんてきつの 三
そうそうや大変でどざりまつたゑイ。そゐいふ
ゐるゐ二河やの女ゐおあんなつそんべよろさ
春袋 あつてゐ内のあつをあるよゐ癒でも
いつてゐこるいうさ 三 物とゐさんもあやまゐ
てよとをゐどと。お多をとゐつ〜るさうそうる
ゐのどゐ 春袋 そのゐがチットころうかゐるされて
ちまつてゐへ系ふ出〜とるきうくした紀伽を川へ

みがそふと物めろさ。上包ふ。あいつぐ。ふでこを
コンコ（トみを紙ふくろまいよふ手でかいさみを出を）なふ。物りろそ。
物みざ（ドレ）おこんせろそんまー（春之助）イヤそれうち
ばろじろ（ば）（アサ）物りんせるさいまー（春之助）ナニコンゼ
とものみサ。（文句ハ未詳。）文句ハ未詳。大安寺。他のよろぐ
どよう（ば）風向とかるんとろ。出てあろさ（トちやりーるぐ火
ぢちくこだろと）
ぢろとるくろかん
きんを考まいろって（八ち）（ドロ〳〵）おとまさんがる尾で
出よふとらふ。あざアハ〳〵（ろ）（ヤレ）物いるぶるまろさ

（春之助）ナアニ（けげ〳〵ちくい。（トお物のひきろさ。新つた仕物の文句ハ
舟乃深俗ふ。あまハこて不明。）（ろ）
おとまさんの。ろいさざどつも。ろろ〳〵ぬくよ。女よ
ろ〳〵てよ。ろそふな物みがきれて。ろまろさ
物まさんのまろ。ろろとい。焼さて。物ろまん
ろどハどふをあ。ゆ〳〵い子イ（春之助）あゆ〳〵も。行く
おをくろ〳〵も。行くみさ。チットかく〳〵んざるざあろ
てけさ出〳〵さが。七彩堀。主来く。主ろ。節屋を
たるろゆがあると。がいてあろさの（ろ）それでハ

大きな沢がありまさあ。七郎堀へ出るさんの
親元七郎堀がかんどこの文句でございます。
[表紙] さてそうといふ。ふうてやハふ兵衛だやァ
あるめい〜 [ろ] ヲヤ出来だやァあるまい〜 [表紙] 色
母息子ぬ子んの出来サ。八五さあさうめ〜
ろくもよりるふれヤ子ろけ下されうとかて
あるつ者 [ろ] それでハア子がろくらあも。
行るとふのなんみろ七郎堀へお出るさい

まの色ざあ。ろうまとまい。拾ろくるてめいう
まうと子イといふ更舟乃忠兵衛のおかまちとあてる。
おうさハどうこ火だちくちんちうのちろうとけ・ろぐ
ちゑ子ケ・ふちゑ子ちまんげ [ろ] お一ッあがって出思案
などみごとふなるくて
どころサ [表紙] 猿丸大夫奥山ひとふ形でかん
げんく見てをいて智恵を出移へ忠こう一ッ
のんでろみてくだ [忠] 十ア二四の五と入りやせん。
あ母のろてよこ〜さろ。のっこんでいきるり見通へ
まろさぐ。イヤ二河やの廊下へまがって拾ッ中

ろけへ〳〵 それぢゃァ拙とあたんの親とふこ
ばけがお出るのそるよふぢゃるまいろう。先七郎姫
へおめひざ〜サ うんのろふゆくまもーめく。
うろちまつて ろまとろ ハテかるいそるよおとあ
さんもるのいろようを通をるゃァ。るのめろふろいお
ろろのるんがありまろよう。おまたんも又見うけ
三年のあるでみぢゃァごぢんあせんう。縁素ふ
うろちまつてろまろうへおろんじゃァごさいませんう

拙のヒ行くのさ ぶろ。お結るぢいそ弟のおとろへ彩川の茂兵衛
氏茂兵へ辰巳姫云よりのるみどろうあり要をいあめ
るでみるくあとをのが一あるるる さんとあろうだろう。ろう渦
店の嘉乃流でろふろ弧きあてを。お唐紙出で
ちゃァ天とろうぢしの沼の童抱ろあちるあろろ。
るぢろうろくるふ。ぢさ勝でを焼ろうぢ。ぢろ
とんでもるへ出やせん。よろんべ年季の弧ぬる。

見世でも出そうなガアノ子の手ぐそろだんだろく
まづふのあつてぞふこてちかつていやちよろ〳〵ぞるもグ
はじめうちの色ぞろで逆引とろ。ひさみ・とろ。たた
ろいとろ。手ぐまんとおいこあぐとぐんちろう
ぐ。まろちぐつとろ。地めいをかせいでとどすとう。
ものをなのげん年季のうちぐふ風ぐかろてあと
ろ紙ろめいあんでとろと。小股おきろ上〜く
いるうもちろをもん。照降町ちやアどぐいやせんぐ。

鬼をふんざりさーちろう。下駄傘の高高だく。
てをふりるーふてあくぐ。どろらくのさ。チョット
湯へいつてめろうちとトいまそ。今ろ屋の湯へ出てゆ。ばこ
ふくく。臭ふ物りろきちろこ。いろてをよふるれどばへろりのの
あるバコどぐとてぐせーなろ 図 ヨット 物ろころ同ろ。お紙
子さあふへ先ことをくへどふぐありまと 表紙 お
きやアぐをあんまりろ地ロぐころいろろ ト面一 部屋 こと
ちみふるつてへ腕ません子イ。ちつとろをちやろう
トさきぐざーたやとしさそをちやのそそ チャン 物のふる
とくどちらふけくあるちやみせんをろろく

かるたねべとそうきさ世とよくあさうめさもり
るうり チヤン チヤン 表紙 ありがとゝ〳〵 ちこと物うさん
ちのそこいは〳〵へトぞちてかる紙
つぬうぞ 表紙 〳〵かゝや ゆとけが
うそたくるゝ不さてさのゝとゝ紙ぞうかとうるる
トゝゝいるゝ チヤ チヤン とゝもせんをとゞる 古風よゝ
さゝづきをとる ちこ おいて高くやゝみゝ
でも紀清ハよゝぞど高いきのゝ文句さ子イとゝて又
ちやみせん をとゝて〳〵むりるいこゝけすゝきゝのゝぞゝ〳〵ゝるぞと
いとゝゝてゝるゝぬ○ホン三代唄のとゝり。おとまもん。

おまたんへ紀清の云沢がゝるとゝふとゝそゝいゝそ
かゝとんさゝでありまさと 表紙 十ア二 あのだゝゝわゝめが
ちこ むどんゝゝョおゝゝ毋よゝ。だまさゝるとゝゝく。
今ゝゝ七彩姫へいゝてゝゝゝ中。紀清の沢ゞ
分ア毋ゝよゝ。ハテ一且ハ茂房さんの報を高ぞまを
おゝまゝすゝおゝも祝へあんそたゝゝとヤ中たゞぱゝゝと
いゝお菩さんの高いきゝゞ物も右ゝんゝゝゝゝヤ ありま
せんゝ 表紙 ゝゝ毋ゝと吹べありゞゝゝゞ突出さんゝゝゝゝと

ゑもうんのうらゝ　ハテ　るのゝゑよを通りたみがあるゝば。
おまゝんのゑけみゝるゝぶど。ゑを笑さう海をほしゝお狗
みゝるまゝと　ゑよさんのねゝおめゝのゑゝろさうゝゝろても
又ゝふゞ他所ゝるゝめゝ　ハテ　おまゝんゝを仰合ねゝ。
後ゑ房さんゝ用事をあびせゝ。ゝる系とうゝんとゝゝ
だんゞみゝまゝのゝようゝハサ　どゝせゑまゝうゝだゝる。ゝのゝを
丹ゝで笑ゝ出そゝふゝ。ゝたゝこゝゝう寝ゝ搖まで舟をこゝへゝさゝろせい
　又百足屋とゝゝ百足屋ゝゝゝゝゝ　ゝゝすゞりをめゝぎ出さゝ笑ゝめゝ
ゝ抱びゝゝるゝゝ抱り代ゝさゝる

ヨヤ　お襟ゞかゝゝりません　ヨツト　きゝんせゝたゝこみ
よゝふサ　ゝちゝと性をけるゝてあゞげヤゝそゝ　トどゝせるかを一つくらゝ
ゝゝをゝりのゝゝりをちゝゝゝと
ヒヤイトロ〳〵〳〵〳〵

劇場のゝやぎゝりの音　ドロン〳〵　ドコ〳〵〳〵〳〵〳〵

七軒堀親里の太鼓

女ども　おゝんゝるさんゝゝる。おゝんなさゝい年。ゝは繁昌の
お家さゝゝおゝよめごさゝゝゝゝのゝは初産ゝゝゝゝゝ

母のらんみやァまいりやさんぞらさく出て
くぐさう申る。おくんみさん申〳〵〳〵〳〵（ト口ふ考べつ）
ている之世のものハきをつぶてらゆ考みせんかと。世界大ぜん
一なそりあげてしをくるとせく。きぐ考れいて出す
じやァごぐりやせん。はなの人数へくぐさとく。
さくた千両う二ふまあ一万あとも入りまと
まん。けんこうるお義だくと。嵐完てもあり
そうぐ。大れちんぞさあれいんきよさまお
そうんるまくれえんぎようおひよりの絵

きまめれ猫子さるがおいとしい。お質屋れう考ら
なのいぐ。流しくおしまいたなまくたら。七夜の祝義も
ぜさく考くぐ。ろくちなころちやァとぐるまやせん初て
のお孫さるでぐるまやと。疱瘡式お考まいろのさる
まぐやァまいつまやせん。義ろ上形れァおちふう小女
ろ考男ぐろうまなのさりやまとろう。考れ考んぐれァ
れんちういおさだまるまと。店ぐらしの麦以れ。お
囲りのめいお情ぶう。おくれう考ちを抜ぐけこ拾

よおしなさるも えんりょくおるまやを一はすわど
えべらーえく。まづめなはたらてけた居ぐ。お乳
のどぐたうりひやとえいまくいふけイ
きなよべナヤクチナヤ クチヤベナヤ カヤとととと
人世のあいもとあまーくあるあるあ。小ぞう義理乃れが
△さんくわる紙人はけ出てうえせるまえ。みちあやまんく
チヤホヤと立さ居。あとハ大コとひとなる義理ハ
おりまーもこふきかくまてカヤくいろぐみくまとまり○みつくいロ
ときおぢぐ。又よくゆびたぐ。ことの息子もおまぐ
やうか。女房四男ぐ好ゆえ。あいうが耳ゆと入る人

非人よさんさけとまるまこ居ゆうふたのんてハ世間の
人のいろくハぐだらう。勘当さまとおまぐ月
もおなぐ上。私の吳見もうハけ。ごんなよ
あそびあるいてハ。妻子ぐ乳ぐ乳ぐ。
の者もうハけよなるもうでハ。あいうが云こ居上。
月上の病疾おまぐ。おまぐ仏一ぐうう。女房子を泣
せるも不孝の罪非人ゆ。おとんくと。仏ぐ乳ハけさ
きうまねあ縁ゆて。おとまぐ内こたぐゆあるハ世ハがうくた
りの紙なのくべたハこをーあゆて。おくくハるるやとをるとうハ

おやぢハふなうさをとりたらそのるを
ちさあやふ迎つれよるのりいろくたをしありて 【表】 おとまのが舟ふ
こてまをくたが船をくるを船といふよハ訳もあらじ
と。お迎舟のぐら乗いるを中と 【おやぢ】 ハちんせるを
【四】 船ぐ 【ちろ】 あけとけふ子ふたんがおたるゝ〜ゃを
ちろう。おとまのが病気ぐ訳こんぐのる間こん
義ふ乗いるまをたら。泣るぞろうを中はと。
板ひなをのをくを人めいハいやうなめ。部屋の
はたあひハたるこるゝ〜ふくうら船ハうぶいんを

死んくちまひたのとうをくかるいそうふ泣まのうをよ
ト子ぐとうとをとうとおあろハ。お名到といふまお
めハさんと義兵衛さんと長さんといふ三人をを
だとゃまゝ。義兵衛さんを年季を扱をかを
うをとはあぐこざいやゝたが。はんお店式ちく
ぢんくうら。おめへさんをやうはくせをるのさるが。
新子のとをたうせをとあなうを義理もあをで。
どうのふをとををへあう。おめへさんへあいそをたゞ〜式

きとめいのでも行くーと言葉使きんくおま
まるよ【表表】いもはふきろくるまるまーしが親戚を面わく
ふーとことはかしーかくーへい気なかわみるくなるじ
わっぱわど義理場はろちょうと義理名刑
だくろ。義理と下弟はまげきを行くとしの
場もあるや表ろサ【あるろ】お月ふかってお世
ヤていはそまいぐございまと。悔るるぐく
かめくさんも。は言くろお内のめくがおるふい
そふるるを。その西くあちんぐ。切る店のはを

生ぐをのとしるをとのんてこい行く。勅使と居わど義理
といぐーはまづさまんといひまくこ。表さんが内
へまいるまるをくこぷ。そまいぐけそきをんよ
きをるともいくーや表ろうを義理場さんの方へ
いくそおたやさが。長さんとは女房やくくを
表く。義理場さんよくこぐーを。ろるめは消は
けーたが情弦たのくあひやをくぷ。三人ぬち合
るをくさ付いたまぐぐ。げんくはるぐくを

ゑんとう。板ゴも ゑとくゐるぐらゝ おあの人をけを
ゑゝ 絵へうと 眼場の 前へも をまるど。絵屋の 笑ひ
ぐさゐな 屋ぐくや。いと アノ ミまぐろう ゆえ ゆき
ゑとく おすまさア。その 中ぐと。りゝや ひとゑゑ
ゐも。たのゝゝゐ ゐりへ おりへさん。ゐるゝく お出る
さ屋ゝも あらうゝ。おを 付ゐるゝく おけと
いひまゝ。そをゝゐハて 名人の ほゐハいひゐん
とも あゐと。ゑゝ 者 賣人の ゆうゐも 絵へ ゆ ゐ。

まぐ 姫子どもゝ ぐゝぐゝを まをゝよ ヲゐゝく 虎
ゐんちも三年ぐゝの なゝ をゝ 子 ゐるゐく
ても をとびやせん トあゐゝを ゝのけむを ゐまぐゐゝ
いゝ 書 [illegible] モシ 因形 おゆへハ アノ ゐを 世ゐ ある 古 賣 絵
を ゐゐ ぐぐんゝと いゐゐぐ [illegible] とゝぐん おゆへ
えんゝこんぐゐる。モシ 雑 ゝ でぐゐまをゝゐひゆう
げゝゐゝをゝゝを ゆ ゝ 生まを [illegible] 因形 行ゝゐ 世ゐ
たゝへるゆゝぐぐ。ハテ 絵 明 ゆ 人の 古 賣 絵 でも。

もちろうあかまんまんまるめ（紙屑）のえんが
きれいちやアそんぢやくなるふるはるの（サトウ屋の中又）
ある五ど　さとり　三シ　ゴ　五徳（ごとく）は一本（あ）ぶかけておアもとぶ。
たとへいろで茶を飲さんと長さんの二本の
（あ）ぶ式（しき）ろうそくおめへおもとでも。たちを
ちやちやうが（まる）たぶーめなりやとをこい。
三ッ鉄瓶（まる）ぐらのうーく（おと）まが（ぶ）ぶ立ゆう
ホ月和おためこやと（ぶ）おとまハもとと

ぶ（おまと）ぐこぐまとぶはかやぢがどうろくで。他
人の金ホさ世話（ぶ）よりハとうちりくちまひ
まこぶ。今ぢやアおハはぐまと（おち）ろんぐ
姫式ろうこぐろぶ。狐式ろうふとろて男人（ろひて）が
あるめろ。モシ二そく三ぬんのがろと乃貝（ぶぐ）屋
だろう。ちろうと流ハ又式ーやこいひなきん
ちとぶ。人のちん者ようを又式をとぶぐい
ゆ甘んぐんこうをさ世話ようホちろ（ぶ）ちろ拍（ぶ）ぐ

うら。先ゑ足ったいの尾がくさくさくなるじのやうん
ゐざるを出ー。俵ばまるぐ紙ぐるぐるーくあな
うら。紙屑籠ハ猿ァ人ぐるーさん。かけ尾丁
足のきう猫人組板でくのぐうれ猫目くら
のうきびち猫ーつく鬼ッうけの丁絲尾きを。
尾ちやア猫人かくあめの紙買こむやうるめ。
先祖代々のたくうるめぐとあるをしへいい物
うとゐ人がくまとぐるまきくうるを位牌。ゑく

いくらぐのとなるを。代呂物ふーくふんぐ
足るを者奏冥利。おとまるがやうをかうるで
もおかり人さん方ゐ拾玉さまをこゑャ。お乃具ふを
なるをやをうが トたゐふたかちを ホイめけたうう
とけぐいうとまくういんう 表紙 な居組かめへの
いゑ面うんくを式さを居とゐぐ足ゐい者奏。
尾といるをむうたけべかひうぐをもあるめいが。
ゐーいとおりんさ乃具なるを。表紙たけをくを乳

だがん俵紙うつさ為る。たくいけべいっが
【ちゃうろう】為さまわさんとともおをぢたよなるまやー
たうう。まあくおさまるとろうべ。五徳のかう
小なるまやちょうん【ちゃうあん】ちょうー長ぐやとろうが
どうぐどうろう【長五郎】長さまあおまえづとろとおるさだ
たまぐ。ト二かいうろおまえ。おまえ紙うつく。ぐひがけるく
まさるぬいぐうしてさくあとさるまもせびおたまを
かえけてくたまもは【ぜんかう】長とよろびるさんこアおまえいく人
二階屋の廊下や小使下ぐまたかうぐ。

まさんといっかおっぐ。ト【ぐけてくいかぜえ】【ちゃうあん】アイコンっ
ちさトいっさぐおまえ大ちゃうよ。たぐぐ紙のんでおるさまうるるっちットきせるを
下ゆおみてくゆのてくんちなせい。チットおたのこが
ございやと。おとまのぐこのチャ。三年このかさ名訓
さんぐ。友ちまや子かふものろくぐろる稽ぐ
うう。ぜろひ女房よ云ふ稽くぐやア。組合も立や
せんうう。おめんさんさのこかーも稽いとろう。
きうまといよおとまま紙ヨんちかんちなせい

[illegible] 跡をあがるこゝろ[illegible]なるゝ。おとなよりく
名代をとゝ[illegible]ゝ巳ゝふなるまとゝやゝゝ
[illegible] 足通ぐのゝひかけやァゝゝめへ。草履
の紐ゝる事ふよぐゝまて接拶をゝゝ
さゝゝどいやゝゝゝいやぐようさぐぜゝ。
九ゝ妻ゝ子のゝふも移へ。ゝちもてうがくを
ゝくゝゝやとゝゝ。なんうんゝおぶをいふぐを
ぐぜいさんがおめへの出やうがおりゝくゝ移へ。

雪橋へ引ゝけゝ車かゝやァ移へが。よゝゝ式ゝふ
のゝけゝのぐ。金比羅さゝが羽織扇けひを
とゝゝ。ゝる煙ゝよゝふゝゝゝ。ゝゝ。ゝ石尊
さゝの大ゝ刀でゝゝた。ゝまゝゝゝぐゝ
ぐ。二河屋の性場ゝやァ。番異のぐく云ゝゝゝァ。
屋敷ゝゝゝと下駄てゝ。ぐ。お客へぐ親ゝ者式
一組ようびやァ。ゝゝちやァ二組三組ゝゝゝゝ
口をかけ。生爪ゝとゝ女どもやかゝべ組巳

いたるまでよくしてあるやァ。大纏のだまてん
よりやァ。ふりまわすともみがるいよ。拍子の赤
門の美女人。弱宮の火のこんやぐらの見代を
かけこのとおんへ紙なんぶ。さんーたる屋敷
たうちぐうめよ。赤ん子まるーえい紙まるのご。
モウ　とまこうこう　おとまのぐ　からぐん　第入のぞん
ぞ。ぞ。ぞ。

おそべのうまのかしらの。防（ぼう）臣（ごろう）と猪名（いな）さ
トきたれば武者（むしゃ）まんまんく
そこくおんぞうしかる

[出五ノ]

おのれこの。お母（とば）のがあまをやと　トかくのごとくふかきけらをまこまとまりて
行くとうまをかとまが起結（きけつ）の文句（もんく）出（いで）ひらひらくんまに
まこくく二すまをのりくまを傍（そば）
ゆくくまをれあくまをくまを
そくんぐくにくくくくくくを
くまくくくたくくくくを
ゆくくまくくくくくまを
けくを紙（かみ）傍（そば）

せくくくくくく

さんしゅうとおりひきり中たのサ。ちうぎ
でふこうとゆとめいこうちもの金比羅さゑへ大
願ぐあんく。一生ゐの女郎買ゑもちやーた。
たらーこゑまでさとゆとく。後ゑ陽引こゐれ
ちやア。あいつよけさゑてさいとまゐ撓乃。長と
いふ名ぐさとたゑやとぐ。ゆえ流がーゆ後ゑ陽ぐ
はたゑ流ふんぐ。おとまゐづき出をとたゑ長いを
たくさて。おくのお出ゑまちうけくたこと。

けんのこでぶりはたうこゑ。おゑくのお乳ゑを引く
ゑくのサ。情のあんなさる流ゑ長さつへぐおとまゐぶ
おせるゑ流おたのんまちしこい。おるよぐるい流や
中たふれ流ゑなさいゆやく。トかくのゆゆひとゑそ
ぶるこ流をぐる
長さんちゑんゆもやせん謀ゆ乳ちゆさト
つふいるゑ流
きけるやくく。ぐふうとあんぐやーたゆサアく
お考ゑ花
とこぐけきんこれつきんも始らかいさ
トこゑふあるゑ流
ゑりくこかえーしこ通りまゆくおたのこやまゆを

[さんろう] とゝ丸ヱミ 茂三郎をけさを出ゝく。むとまゝ狗
いたちのやうゝ。佐兵出さと[あるさ]山乃耶麿をと。
[ざーさ] 茂三郎を[ぞ]ぐゝ[ぐん]ぐゝ[ぐん]おちやちやうぢやねへ
う [長三郎] 茂三郎をけさ佐兵出さとゝその後篇乃
[ねしも] 言返だらし [四五郎] 茂三郎みゝ[ぐ]をけさ。[ちよ]ぐ[きう]の程
ゝの[ぐ]山[やまと]をゝ[ぐ] [長三郎] のゝ[ぐ]れとゝ[ぐ]ゝ[ぐ]ちやをとや
ちやうゝう [四五郎] サアやいゝやちやう
[熟願乃壇] ボヲン

[つぐ] 崔今岡耶麿本の套[とう]

[熟願] ゲイ[げい]ぺ[へ]マリヤ[まり]ゝ[ぐ]ゝ[ぐ]ゝ[ぐ

ヨウンて〜ちゃ屋がいく 松義 文義ぜんどまゑ さる
ぐ行くとよさう ちゃ屋う 附文 爺さんへさとげと
いろうちゃるおとまさんへさぐるとうこいぜゑ
むぐういく 三木義 そうさ 長えい 貧ちゃ 行くう
長義 ちゃ ト うちくいうくかまゑ ゆめうこと ゑのうう
三のやのお八主 いさうさちゃ〜小酒とちゃねくゑ 高義
ちゃトいちゃぐ出さの 皆 ゑ八ぐ 松義 尻をまくう
行へうゑ。柿吉と兼吉ゑうとぐゑと 阪つゑる

の式さ出ゑう 三木義 柿吉でも兼吉でもよゑ
みくきぐ出ゑく 八主 おそうしぐ なゑよ チョシく
文 おうびゑ ちゃ〜たくへトいぐ出ゑる
そうくちどんぐゑくへ みうとい〜めぐ 文 八イく 品今
あげまとトゆく 附文 あげまとの 出ゑどうだ
三 ぐぐちゃまぐいゑの。なまるうまくへ 柿ゑ。
イヤこいうゑるまゑめぐ 長 ゑまゑめくといゑのうゑ
よく酒式のむぐ出ゑ行へう 松 ゑまゑめよう いうこゑる

ちう地ぼのみるッこ見えてある。蛇者共方めとん
ちやァのあるも拾たろ丑まのせん 笑ひ ちやのとのりざ子へきもぐ
そうる者えが 笑ひ みとく白水あり蒔木山残ろことそろハ
きくみく
人一通りよりてのややとせ 笑ひ みくおざ子へせあ
いぐ二人一ぱるぐ口ミをとんことおりやァいやァ
拾くうコイ 笑ひ いちりぐこ蒔代
たけてたんと立を 笑ひ どこへゆくのぐ
笑ひ おそうづゆさトこんうるこ拾あ
んとうのありそふま 口くあやまるちのみ 笑ひ へあ蒔つけ
みんなハるん とおのふうちう拾へぐ。ろ田カ

ゑどうまく拾ぶやんん。おらあきたいきうひぐ云
ふちのう蝓といふのぐ 三 ナゼ蝓ぐこざうまうと
笑ひ ハテ色さんなうちう拾けるやァいうとうう
て。ゆと見ゑ拾くうせみむうたぐうァ。花を出
さと思ゑ同鼻があう拾へむやんのる思ぐうんと
蝓ぐうう 松 いうさまう子そんなおあハ塩花を
ふうくとけさせくやるやえうう 笑ひ そのス
蝓式のまたぐる蛙のやうなあがあるや用よ

附 ハテ子 [illegible] 蚕といふやさあちうったらで
[illegible]ぶ。[illegible]ぶ。[illegible]が[illegible]ぶ[illegible]
グウの[illegible]ねくやんさ。ゆでもたらめさせて[illegible]
てい。けいこのやうなあるもあるぞあ[illegible]へう 表
けいこのやうなおあゆへ仕合とまぐさ出さうのも
ござうません 表人 たのまさ[illegible]れ蛇とらふ
子もあるのよみるこの[illegible]あるゆへ[illegible]ぬら
[illegible]と完だいうまぐ[illegible]かいこの。蛇

みのまさてくみはぐさ[illegible]ぐ。蛇もうまとちらぐ蜘
よとけてくちまう。ちらいべうぐうう[illegible]もよん
ちとはくろうちよまうだ 八寸 おとまうえんうろん
だ人後るび式はうひまうと人 兼 赤がこのちらう
付焼ふーくかんどこでもふつきうせやせう 摘 を
なうでもうのくぐうん色男ぐチイうんちやあ
まこのこふーてんよ 表 イヤ ひまくいのぐ 貴 ア
ヨホこ[illegible]ト[illegible]

まぐさのくきたりぶあん
さうふ蕎麦がそだてをる 蕎麦 なげいてうどごとけ
なんざの かてえ さうこと用ゐるのみなれさうず 蕎麦
久しいめよ虫がかぶるのう一ッへいのこや 蕎麦 ヨろ
ちやァくふうう湯ざちき 蕎麦 のこやアぐ王 トさうづ紀
るとなまるむしさたちり さえのけ有
めんのひざえざうふつもかる。 かてえ ヲやきたい志ゆきさ 蕎麦
でいぶ平気孫尤まざの。そのこんどよそがけく
ねざァなほめんゆべおまるいぢりさ孫さ王。
ざひちく森下を生紀生ーく。おまてふむきく

ゐんせうけるその欲ざつさはらァえろ。りとでもねん
智あ残ふ居ッてつ。ゐいらぐが根場紙くるのせくこを。
冥こもむやうゐ蕎麦へざあ孫人稲の一ッ生まを紀
ゐまやァ田王があるろへチョットよび出しやァどのあざと
さとつくねなぐら大国ふえるのぐ。を京さも切る
といつさぐ。突出さとるゆへこうとらふがさたらうきよ
孫人根性月ぐ。扱ひ田さとさまどいんへトゐろう
く残いふのでへ孫人利害紀いつくきろ世ほのぐ。

垢の垢いろ腐縁。ちらちらめめ。ちらちらまめ。
トサこもごもしくしくねるでも行くまでもまでも
いつやせん茂兵さんおせら我お部やまとと
ちんとふいやアとまるるいさ（おとこ）へぬ我ちんの
ちぐらさ迫さきのこのちんのちぐら我ちぐ
ちびのの弓ちんをとちくく（おとこ）ちらぐちん子イ（八王）ヲヤ
そそ王ぐくく（おとこ）いちるぐのと片だ行くー一ッるいうけく
むいの行る行のとの医茂兵さんあげや右ようう（茂兵）なんざあ
まの宮のう（おとこ）あやまらら行く盃サ。ちちとあちらー

からうう子ハテ一足あめくの部我ちくく。行くさんを
つ死生ーちらいくぎやア行いくそそまふちちこぎい
をいひるを陸の店元のあくがぬけ行くのぎ。おぎよ
さいも行くとヤていぐ。おあくもちんれどるげい気ぎ。
ちちいぐ中るる情の行くいちちあのよちなーんだ
おめくがれそさうサ。おあくの大ふうふあうげ我
吟くん子もぐ甘いちちうう。ちちアあ行盃けいちく
おさちそだよ。こちちうちぐるを中と盃さ

さてドレ重兵衛をとくとこのこころの武そう　トいひごとくふ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

気紙〜〜。けっこう世中〜〜こん店のめずらしいもんる
さいや〜〜。代数の義ぶ。実ふかへるを勉昔
懲悪貸本で。こん中ちたぶ。ちゑを本乃れるホノ
拾ひ〜〜ござこまちと 庫 さとぶは支配人わど
あつく。きをさちの之のいかさだ死や。大死よ
菓子いこ〜やこと 平五り 出へいさくさ色ふきんざ
こんぺ。けっこ〜ちまけさおとまぶ猿の。二人今下の
一点ハトふぬびを合下ハのつを死ちうね

そのうでぼくよあるこんこと トおとまぶ色紙とちこ〜ちゑぬぶ ひぎく片ちた〜ち紙を
 表紙 どうらくもモウ是切。るゆうのお礼ハ二ほやで。
おハをさちへいつく指和屋の扱紙買きんて、
おちやや 男はいやロニ ヤンヤく。一ッちゆまちゆうちこく
 相兼 ア〜ざっと トちうだ 出ちふあそぶやよ孫ぶ
代の悪ハこちよくみきよむちなる猪の羽ぐさね
千秋のえ〜紙たうこねみよちをやだん
ざいらくとで義あさむッシを。ナヤン

陶言 是より二行やみなるまでこゝに三人へ一坐あやまりしき高山こう三人日りどこのまにゝ三人の情況かたりける高山のもの おとまるもの 書紙へと
辰之かぶのうちに高山紙かとふくの おとまるぶ 自れつよかんじて 書
故書紙はるさまとかいろ紙ちかるるの 長る 少板仕人 紙長 花の 書り
四編目 序終 作

拾遺 桟橋雑記近刻

右八新渡本の板橋雑記より抜書 紀 なるひ 桟橋雑記と号し おとまが
いろ明の白門娘子似る一紙 姫 紙あらと

船頭部屋 大尾

後序

今年大桟の
とゝにがいしそめ 現 ハ
こゝ南をきんだ乃
貸本 ハ 岸番 り
あゝ 祝ども おとんどこの

玄に又たる抑趣
向ち家辺 奚作者も
二個舟頭部屋若の
呈かゞ地に浮を
水掉乃一本とゆ云ん
なたゝも毫の掘ぢに

櫓ゞひ乃早尾たゝ玄手
こ乃本ゆとゝ
猪牙と云爾
氣散人屋根船乃
裡に抄〻毫を採